

国内経済情勢

概観

公共投資は堅調に推移しているが、このところ輸出数量が横ばい気味となり、また個人消費、設備投資など国内民間需要も引続き力強さを欠いていることから、出荷は4、5月と2か月連続して減少した。このため生産は抑制基調を続けているものの、製品在庫調整はやや遅れている。

6月の商品市況は前月の地合いをうけて軟調に推移し、卸売物価は為替円高や海外市況安の影響も加わって引続き落ち着いた動きを示した。また消費者物価も6月には季節商品の値下りを主因に10か月ぶりに下落した。

金融面では5月の銀行貸出金利が大幅な低下を続けた。また、公社債市場利回りの低下を映じ、6月下旬には債券発行条件の改訂が決まり、長期貸出金利の引下げが行われるなど、長短金利の順調な低下が進んでいる。

5月の国際収支は輸出の減少を主因に、経常収支の黒字幅は大幅に縮小したが、総合収支では黒字が続いている。一方、6月の為替相場は再び円高傾向を強めた。

出荷は2か月連続の減少

5月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比*、速報)は-2.1%と3か月ぶりに減少したが、出荷(速報)は-2.4%と生産を上回る落込みを示した。このため、生産者製品在庫(速報)は+1.5%と前

月横ばいのあとかなり増加し、同在庫率(45年=100)も129.6と前月比5ポイント方上昇した。

* 以下増減率は特に断らない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

生産面の特徴的な動きをみると、鉄鋼、化学、繊維など素材関連業種が引続き生産を絞っているほか、このところ増加傾向にあった耐久消費財でも乗用車、家電製品などの好調業種が減産となった。他方、生産財・耐久消費財の出荷は2か月連続の減少を示し、また一般資本財・建設資材でも前月とは様変わりはかなり大幅な出荷減をみた。このため、製品在庫は各財とも増加し、このところ進展をみていた製品在庫調整の動きも、ここに来て足踏み状態を呈している。

国内最終需要の動向をみると、公共事業は大幅な増加を続けている。5月の公共事業契約額(前年比)は+17.8%と引続き高水準に推移し、5月末の契約進捗率も39.8%と前年(同38.3%)を上回った。また5月の建設工事受注額(官公庁分、速報)も4か月ぶりに+37.9%と大幅増加を示した。このほか6月の公共事業請負額(前年比)も+40.1%と伸び率を一段と高めた。

しかし、設備投資は、5月の一般資本財出荷(速報)が土木建設機械、金属加工機械、電動機等を中心に-3.5%とかなりの減少を示し、5月の機械受注額(船舶を除く民需)も-28.3%の大幅減少となるなど盛上りに欠けている。

一方、消費面では、5月の全国百貨店売上高(速報)は+0.7%と前月(+1.9%)に比べ伸びを低

めた。6月に入ってからの売上げ状況を東京都内百貨店についてみても、婦人衣料品等主力商品を中心に不ぞえを続けた模様である。また6月の新車登録台数(速報)も-6.1%と4月以降の伸び悩み傾向をあらためていない。

労働関係では、5月の常用雇用が減少し、完全失業者は増勢を続けたほか、所定外労働時間も5か月ぶりに減少し、また有効求人倍率・新規求人倍率とも2か月連続して低下するなど雇用情勢は引続き不振を続けている。

卸売物価、消費者物価は共に下落

6月の商品市況をみると、合織、苛性ソーダなど一部の品目が減産強化を背景に強含みを続けたが、天然糸(綿糸、生糸)、木材などが内需不振や輸入増のほか、梅雨入りに伴う荷動き鈍化もあって統落し、鋼板類、洋紙も末端流通筋の在庫補充買いの一眼から上げどまりとなるなど、総じて前月央来の軟調な地合いを持続した。

6月の卸売物価は-0.2%と下落を示した。これは、為替円高や海外市況安が輸出入品価格の低下要因として大きく寄与したためである。品目別には、非鉄(銅、鉛)、繊維製品(綿糸、毛糸)、金属素材(銅鉱、鉄鉱石)などの下落が目立った。

6月の消費者物価(東京、速報)は-0.8%と10か月ぶりにかなりの低下を示し、前年比でも+8.8%(前月同+9.4%)となった。これには野菜・果物等季節商品の大幅下落のほか衣料等被服の値下りも響いている。

貸出金利は大幅低下

6月の金融市場をみると、季節的資金不足期入りを映じて需給が引締まりに転じたため、コールレートは2日、13日、24日にそれぞれ0.125%ずつ上昇し、また手形レートも2日、24日にそれぞれ

0.25%ずつ上昇した(上昇後のコール無条件もの出し手レート5.625%、手形買い手レート6.25%)。

6月の全国銀行貸出(銀行勘定、速報)は13,340億円増とほぼ前年(同13,301億円増)並みにとどまり、4~6月通計では11,454億円増と前年(同15,102億円増)比-24.2%の減少となった。企業の資金需要をみても、決算賞与関係資金が前年をやや上回った程度で、全体としては鎮静傾向を続けている。一方、5月のマネーサプライ(M₂平残)は前年比+11.2%と前月(同+11.5%)に比しさらに伸び率を低めた。また6月の銀行券(平残)前年比は+8.9%と前月(同+8.4%)に比べればやや伸び率を高めたものの、4~6月では+9.0%と1~3月(同+10.5%)をかなり下回った。

このような情勢を背景に、全国銀行貸出約定平均金利は5月中-0.191%(うち短期貸出金利-0.305%)と大幅な低下を示し、3、4月の公定歩合引下げに対する追随率も3~5月中通算では20.7%(うち短期貸出金利34.3%)に達した。

また、公社債市場における各種債券の市場利回りをみると、4~5月中の大幅低下のあと、6月には資金不足期入りもあってさすがに下げ足は鈍ったものの、信託銀行、証券筋などの買引合が根強く、市場利回りが応募者利回りを下回る状態が続いた。こうした地合いを背景に、国債、利付金融債、事業債等について7月債から発行条件が改訂され、また長期貸出最優遇金利も6月27日以降0.2%引下げられた。一方、株式市場では、前月の地合いをうけて引続き出来高閑散のまま市況は弱含みに推移した(東証指数月末376.82、月中-1.13)。

輸出は3か月ぶりに減少

5月の国際収支は、貿易収支が輸出の落込みに

加え、輸入もわずかながら増加したため黒字幅を縮小し、これに伴い経常収支の黒字は133百万ドルにとどまった。一方資本収支面では、長期資本収支が対日証券投資の不振からかなりの流出超をみたが、短期資本収支は原油輸入増に伴うユーザンスの享受増等からこれを上回る流入超となった。このため総合収支では390百万ドルの黒字とほぼ前月並み(同359百万ドル)となった。

5月の輸出(通関ベース)は-8.1%と3か月ぶりに減少した。地域別には先進地域向けが自動車、繊維製品等の好伸(米国、西欧)から、前月減少のあと再び増加したが、反面、発展途上地域向

けは船舶の落込み(中近東、中南米、アフリカ)や鉄鋼の不振(中近東)を映じてかなりの減少となった。

他方輸入(通関ベース)は+2.0%とわずかに増加した。もっとも、これには原油の著増が大きく響いており、繊維原料(綿花、羊毛)、非鉄金属鉱、食料品(肉類、魚介類)は、軒並み減少した。

6月のインターバンク米ドル直物相場は、再び円高傾向を強め、月末近くには3年8か月ぶりに260円台を示現した(月末266円50銭、月中10円80銭安)。

(昭和52年7月12日)